

石岡市
平成27年度

予算特集

目次

●市政運営の基本的な考え	P1
●ふるさと再生プロジェクト	P2
●一般会計	P6
●特別会計	P8

～ふるさと再生～
セカンドステージへ

石岡市長 今泉 文彦

私が「ふるさと再生」を掲げ石岡市政の運営という重責を担い、早2年目を迎えています。

「ふるさと再生」への道筋とは、地域資源を掘り起こし、まちの個性として輝かせることによって郷土愛を育み、魅力あふれるまちを自らの誇りとして発信していくということです。

1年目となる26年度は、ふるさと納税が2億円を達成し、茨城県1位となりました。また、石岡のおまつりの過去最高の人出、テレビなどマスコミに取り上げられる回数の増加、さらに

は企業誘致で多くの雇用が生み出されるなど、未来への曙光を見出しつつあると感じています。

とはいえ、いまだ道のりは厳しく、2年目となる27年度は、当市の魅力を着実に育みながら、国・県との連携を密に、近隣市町村とも絆を深めて、さらなる再生を目指していきたいと考えています。

当市は、本年10月で合併10周年を迎えるところですが、合併当時の人口は8万1887人でした。本年1月現在の人口は7万6460人ですので、5427人の減少となっています。

また、26年中の人口動態は、前年比マイナス648人です。これは、平成23年から3年連続で約800人が減っていた状況と比べると、減少傾向は変わりませんが、その幅が少なくなっています。

また、20代から30代の若い世代での転出が多い傾向は続いており、高齢化率を高める要因の一つとなっています。

今後は、危機感を持って人口減少対策に積極的に取り組んでいかねばならないと考えています。

このような情勢などを踏まえ「石岡ふるさと再生プロジェクト」もセカンドステージに入ります。事業の推進については、さらなるスピード感を持って臨みます。

また、27年度は共通テーマとして、新たに「人口減少・少子化対策」を追加し、重点的かつ全庁的に推進します。

石岡市には「歴史」「文化」「自然」などの豊かな地域資源があり、熱い思いを持った「人財」がいます。

現在、市では、少子高齢化に伴う人口の自然減に加え、働く世代を中心とした人口の社会減が生じています。

この厳しい現状を真摯に受け止め「誰もがいきいきと暮らし輝くまちいしおか」を実現するため、人、歴史、自然などの地域資源を十分に活用し「ふるさと再生プロジェクト」を実行していきます。

豊かな地域資源を活用した「ふるさと再生」を市民の皆さんと力を合わせ、ともに考え、ともに実行することで達成し、誇れる「ふるさと」を将来にわたり引き継いでいくために効果的な財政運営に努めていきます。

平成26年度からスタートしたプロジェクトはセカンドステージに入ります。さらなるスピード感をもって事業を推進していきます。



▲放課後子ども教室のツリークライミング

ふるさと学習推進事業

622 万円

相談支援ファイル作成事業

26 万円

教育環境の充実

6 億 672 万円

1 教育環境充実プロジェクト

教育の充実で、未来の担い手を育成

子どもたちが健やかに育ち、豊かな心と生きる力、確かな学力を身につけられるよう、未来の担い手育成に努めます。あわせて、地域と連携し、子どもたちが生き生きと学べる学校づくりに取り組み、子育て世代に魅力的なまちづくりを目指します。

まず、ふるさと学習教材を作成することで、郷土への愛着と誇りの醸成を図ります。また、子どもの発達状況や保護者のニーズに合わせ、乳児期から学校卒業まで一貫した支援が行えるように「相談支援ファイル」を作成し、医療・保健・福祉・教育などの各機関が連携した支援を実施します。

そして、平成27年度中に全ての学校施設の耐震化を完了するとともに、学習環境の改善のため、全ての小中学校の普通教室に空調設備を導入します。

2 子育て応援プロジェクト

子育て世代に魅力的なまちを

石岡市は、子どもの健康や子育てに要する費用の支援などの事業に積極的に取り組んでおり、待機児童もいません。今後も多様化する子育てのニーズに対応し、子育て世代に魅力的なまちづくりを目指します。

新生児の保護者に対し、紙おむつなどと交換ができる子育てクーポンの発行やチャイルドシートの購入費を助成することで子育て費用の負担軽減を図ります。同時に子どもの見守りを行い、児童虐待などの早期発見を図ります。

そして、教育・保育施設や地域の子育て支援事業をスムーズに利用できるよう、地域子育て支援コーディネーターを設置し、身近な実施場所、情報の収集や提供を行います。必要に応じて相談や助言を行うとともに、関係機関との連絡調整なども実施します。



▲新生児にランドセルを無料で給付

子育てクーポン給付事業

1,320 万円

チャイルドシート購入助成・貸し出し事業

275 万円

地域子育て支援コーディネーターの配置

277 万円



▲総合防災訓練の様子

災害に強い庁舎の整備
4 億 2,014 万円
総合防災訓練の実施
200 万円
防災行政無線の運用
1,092 万円

3 安全・安心プロジェクト

東日本大震災の教訓を生かした防災への取り組み

東日本大震災の教訓を生かすため、また台風や集中豪雨など、近年多発している自然災害に備えるため、防災への取り組みが重要となっています。災害発生時や発生の恐れがあるとき、市民の皆さんの安全を確保するためには、正確な情報を迅速に伝達することが必要です。そのため、平成26年度に整備した防災行政無線の適切な運用を実施するほか、防災拠点としての機能や、より良いサービスの提供と効率的な行政運営ができる新庁舎建設を平成29年度の完成を目指し、進めていきます。

また、市民一人ひとりの防災意識の向上を図るため、防災訓練を実施します。行政、市民、防災関係機関の相互協力体制を構築し、連携することで、自助・共助・公助による災害に強い地域社会の実現を目指します。

4 企業誘致プロジェクト

就業機会の充実で、働く世代に魅力的なまちへ

若者に住んでもらうためには、働く場所の確保が必要です。市には鉄道や高速道路が整備されていることはもちろん、空港や港湾への行き来も容易なことなど、地理的に優れています。これらの環境とあわせて充実した優遇制度を積極的にPRし、企業誘致を図るとともに、市内の就業機会の充実にも力を入れ、働く世代に魅力的なまちづくりに取り組みます。

市内に事業所を新設または増設し、石岡市民を従業員として5人（中小企業は3人）以上新たに雇用した場合、1人につき月10万円の助成金を最大3年間受けることができます。

また、3月に「上野東京ライン」が開業し、常磐線が品川駅まで乗り入れるなど利便性が向上しています。



▲企業誘致を推進する柏原工業団地

多くの優遇制度と
企業活動への支援

5 生涯現役プロジェクト

豊かな知識と経験を地域社会の活性化に



▲いきいき活動事業で外出の機会を

生涯現役フェスティバルの開催
256 万円
ウォーキングコースの整備
114 万円
生涯現役プラチナ応援事業
439 万円

長寿社会の到来によって高齢者の人口比率は増え続けています。市では、高齢者が培ってきた豊かな知識や経験を地域社会で生かしてもらおうとともに、健康を維持し、いつまでも生きがいを持って暮らせるまちづくりを進めています。

高齢者の社会参画や社会貢献活動のきっかけづくりのため、生涯現役フェスティバルを開催します。また、健康教室や講座、シルバリーハビリ体操など、対象となる事業に参加した場合にポイントを付与し、貯まったポイントで施設利用券などの景品と交換できる取り組みを進めています。

そのほか、八郷総合運動公園にウォーキングコースを整備するための実施設計を行い、市民の皆さんが安全にウォーキングできる環境を整えることで、生涯にわたる健康の維持と介護予防に力を入れます。



▲年間を通して果物狩りが楽しめます

農力アップ推進事業

184 万円

新規就農者支援対策経費

2,677 万円

多面的機能支払交付金事業

9,187 万円

6 農林業振興プロジェクト

新規就農（林）者の受け入れて定住促進も

石岡市は、肥沃で広大な農地を有し、立地条件にも恵まれ、首都圏で評価の高い農畜産物を産出しています。市では、農業を応援し、さらなる飛躍につなげるため、農作物の加工や販売などへの展開、いわゆる第6次産業化やブランド化を進めています。直売所の魅力アップを図るため、新品種や人気品種への植え替えや、技術や施設の導入支援を行い、生産・販売の向上とともに、市の知名度アップに取り組みます。

また、新しく農林業を始めようとする人たちを応援するため、給付金の交付や農業指導から定住までのサポートなどを実施します。そのほか、土地改良区や子ども会、消防団などで組織された地域団体が行う農業用施設の維持補修、生態系の保全、農村景観の保全などの活動を支援します。

7 中心市街地活性化プロジェクト

歴史的資源を生かしたにぎわいの再生

かつて県内第2の商都と言われた石岡市の中心市街地は、郊外への大型商業施設の立地や、東日本大震災の影響により、空き店舗なども目立つようになりました。現状を改善するため、歴史的資源である看板建築などの魅力的な景観を活用したにぎわいづくりに力を入れ、景観の保全・向上を目指し、調査などを実施します。また、中心市街地の新たな魅力や活力を生み出すため、まちづくりリーダーセミナーを開催するほか、新規出店者などに対する支援や、商店街活動への支援を実施します。

そして、平成18年度から整備を進めるJR石岡駅は平成27年度中に整備が完了する予定で、東西自由通路や駅舎の橋上化と併せて駅周辺のバリアフリー化を行い、東西への人の流れをつくるとともに、機能強化を図ります。



▲中心市街地の歴史的資源（看板建築）

景観保全事業

50 万円

中心市街地活性化事業

1,402 万円

石岡駅周辺整備事業

18 億 621 万円

共通テーマと合併 10 周年記念事業

人口減少・少子化対策

少子高齢化にともなう人口減少に歯止めをかけることと、東京圏への一極集中を是正するために「まち・ひと・しごと創生法」が成立しました。

これに基づき、住みよい環境を確保し将来にわたって活力ある地域を維持していくために、石岡市でも人口減少・少子化対策を実施していきます。



▲ふるさと再生本部の様子

合併 10 周年記念事業

10 月に、石岡市は合併 10 周年を迎えます。市民の皆さんの一体感のさらなる醸成を図るとともに、今後の市の発展の契機となるよう、合併 10 周年記念事業を実施します。

記念事業とあわせ、市の魅力を発信していくとともに、他市に負けない独自の創意工夫によるオンリーワンのまちづくりを目指していきます。

8 観光・交流推進プロジェクト

観光振興計画に基づいた交流人口の拡大

朝日トンネルの開通以降、沿線の交通量や石岡に観光で訪れる人が増加しています。一方、観光ニーズおよび消費行動も多種多様化しており、市の観光を取り巻く変化に対応するため、観光資源の活用や特産品を生かした魅力アップ、効果的な情報発信による交流人口の拡大に取り組みます。

開園30周年を迎える県フラワーパークで記念事業を開催するほか、園内周遊車を運行し、観光環境の充実を図ります。また、石岡のおまつりにおける交流人口60万人を目指し、新たな観覧席の設置やトイレの増設、ゴミの収集の充実など見学環境の向上を図ります。そのほかにも、滞在型観光施設の整備についての基本計画を策定し、遠方からの誘客や、観光資源の活用などを検討します。



▲石岡のおまつり

石岡のおまつり魅力アップ

943 万円

フラワーパークのリニューアル検討

540 万円

滞在型観光施設整備基本計画の策定

200 万円

9 地域の魅力アッププロジェクト

地域資源の魅力向上と情報発信



▲昨年 11 月に陣屋門を移築

市民ギャラリーの設置

1,020 万円

筑波山地域ジオパーク推進事業

109 万円

市の魅力の情報発信

282 万円

石岡市には、豊かな自然や歴史・文化など、数多くの地域資源があります。これらの地域資源の魅力の向上とともに、市内外への情報発信を行うことで、市民の皆さんが誇りに思える魅力的なまちづくりに取り組めます。

文化・芸術分野では、市民の皆さんが文化・芸術に広く親しみ、創る人と観る人がふれあう機会を創出するため、八郷総合支所に市民ギャラリーを設置します。

また、近隣自治体や関係機関と連携し、筑波山や霞ヶ浦周辺の地質・自然環境・歴史文化を結びつけることで、日本ジオパークの認定を目指します。その他にも、貴重な歴史遺産を次代に継承するとともに、保護、観光振興に活用します。

9 つのプロジェクトを支える 3 つの

協働のまちづくり

平成 26 年度に制定した「石岡市協働のまちづくり条例」に基づき、市では市民の皆さん、地域コミュニティ、市民公益活動団体、事業者とともにそれぞれの役割を分担し、連携、協力することで、より良い地域社会の実現を目指します。



▲協働のまちづくり講演会の様子

行財政改革の推進

市を取り巻く環境は大きく変化しており、社会保障負担の増加や市税収入の減少などの課題が生じています。また、公共サービスへの需要は高度・多様化しています。

このような変化の中、市民の皆さんに期待される行政サービスを実施し「石岡ふるさと再生プラン」を実現するため、行財政改革に取り組んでいきます。

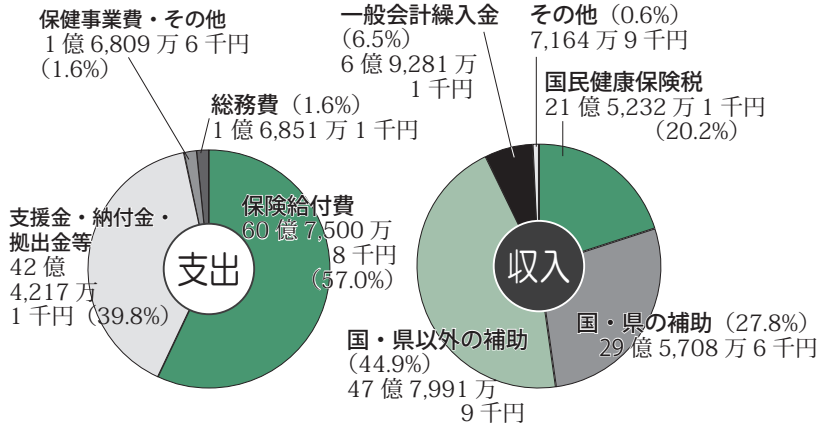
予算総額 226億7600万円

特別会計

国民健康保険特別会計

106億5,378万6千円
(15.1%)

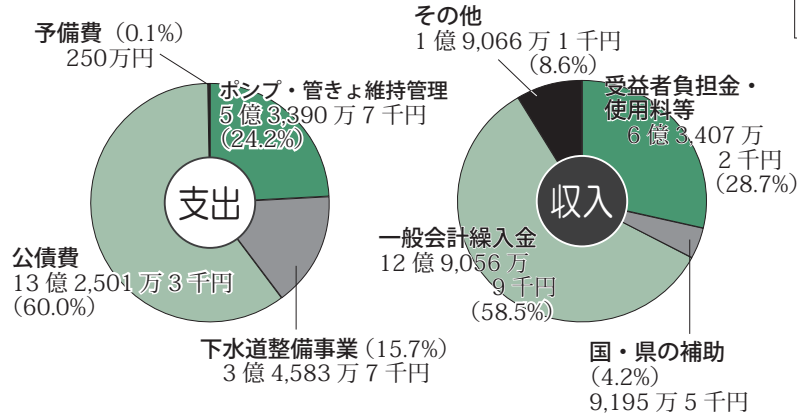
国民健康保険は、加入者からの保険税や国・県などからの補助によって、医療費への補助などを行う制度です。これにより、加入者の皆さんは安心して病院などの医療機関にかかることができます。



下水道事業特別会計

22億725万7千円
(△1.1%)

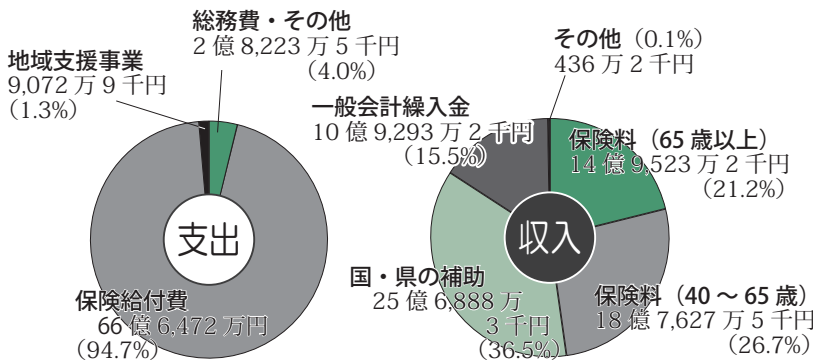
下水道事業は、整備区域内に土地を所有する人などの受益者負担金や実際に使用した人の使用料のほか、一般会計からの繰入金によって管理運営を行っています。



介護保険特別会計

70億3,768万4千円
(12%)

介護保険は、費用の半分を市と国・県、もう半分を被保険者が負担する仕組みになっています。市はこのお金を、被保険者が受けた介護や支援のサービスに応じ、その事業者へ支払っています。



その他の特別会計

簡易水道事業特別会計

3億7,195万9千円 (△34.7%)

三村地区（一部を除く）へ生活用水などを供給しています。現在、28年度の湖北水道企業団との統合に向け、配水管を整備しています。

駐車場特別会計

2,220万2千円 (8.8%)

石岡駅周辺の駐車場の維持管理を行っています。

農業集落排水事業特別会計

3億858万9千円 (△0.5%)

出し山、関川、東成井、石岡

西部、恋瀬の各地区施設の維持管理などを行います。

霊園事業特別会計

1,896万円 (23.2%)

龍神山と半ノ木の市営霊園の維持管理を行っています。

介護サービス事業特別会計

3億433万7千円 (5.2%)

特別養護老人ホーム「のぞみ」の運営に要する経費や、包括支援センターが行う介護予防支援に関する経費です。

後期高齢者医療特別会計

7億2,329万1千円 (1.9%)

75歳以上の人と、65歳以上で一定の障がいがある人は、医

療の給付を受けられます。制度の運営は茨城県後期高齢者医療広域連合が行い、市は保険料の徴収や窓口業務を行っています。

公営企業会計

水道事業会計

10億2,843万2千円 (5.7%)

※収益的・資本的支出の合計
八郷地区の水道用水の供給、水道事業の計画と工事、水道料金の徴収などを行っています。

※（ ）内は、前年度比です。

石岡市には、6・7ページでお知らせした一般会計のほかに、10の特別会計があります。特別会計には、法律の規定に基づいて設けているものと、収支を一般

市では、左のような特別会計によって、それぞれの事業を実施しています。

■問い合わせ 財政課
☎23・1111（内線234）
※予算の詳しい内容は、市のホームページで確認できます。

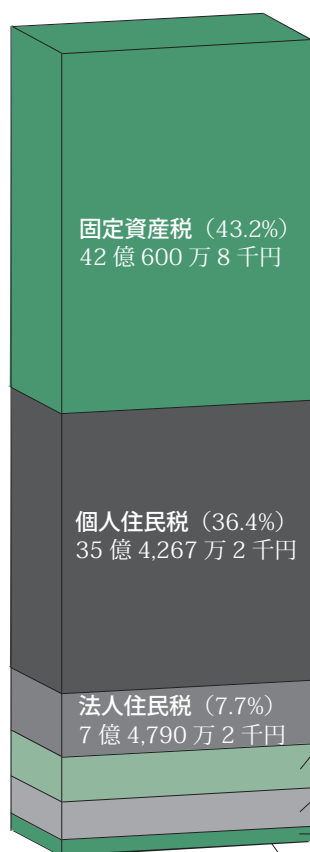
一般会計

市は、今年度の一般会計予算を昨年度と比べ26億円の増額としました。「新庁舎建設事業」や「保育等運営経費」、「石岡駅周辺整備事業」など、市の持続的発展につながる施策として、ふるさと再生プロジェクトの各事業などに積極的な予算づけを行ったことが主な要因です。

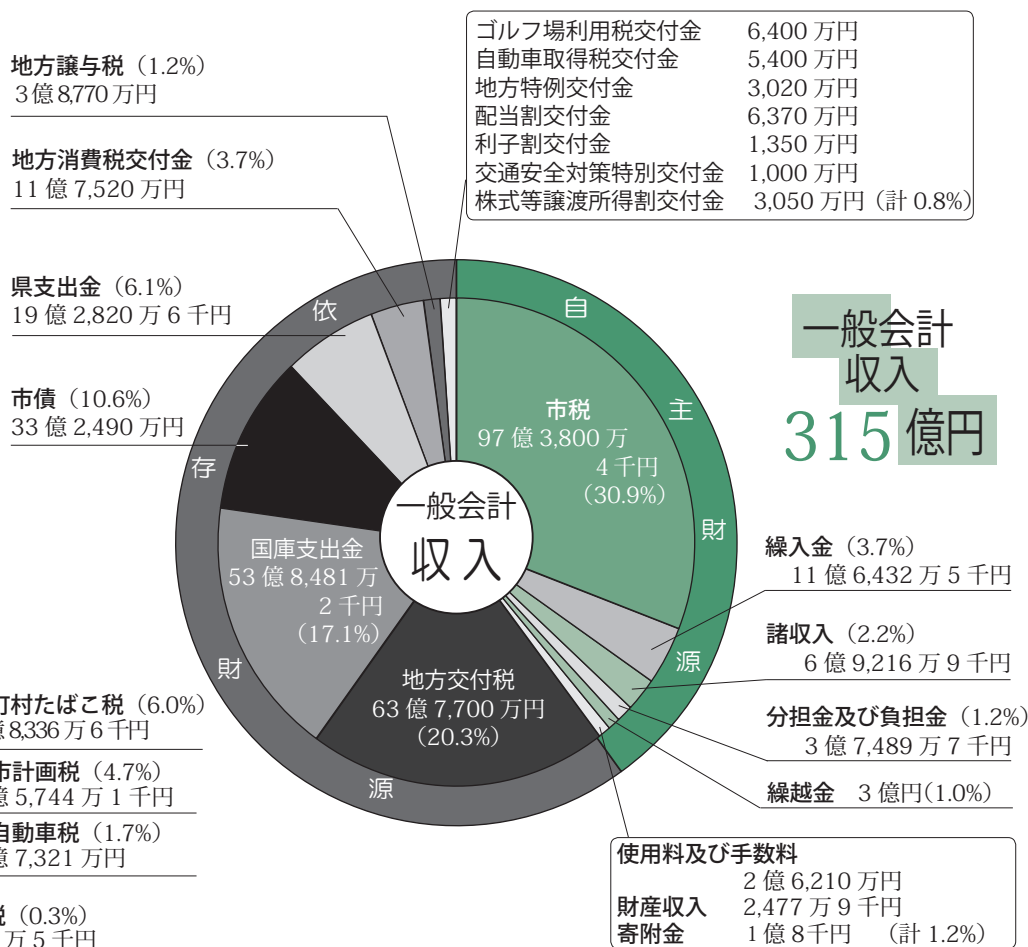
これらに充てる財源のうち、最も大きな市税については、固定資産税を1億5000万円の減収、都市計画税を800万円の減収と見込んだものの、個人市民税については景気回復の影響などで1億4600万円の増収、市町村たばこ税を3800万円の増収と見込み、市税全体では1700万円の増収としました。

なお、下のグラフにある入湯税は、やさ温泉ゆりの郷からの収入で、今年度は約18万2700人の来場を見込んでいます。

収入 市税の内訳



収入 性質別グラフ



用語の説明

◆収入◆

市税…私たちが納めた市への税金です。市民税や固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、都市計画税などです。

分担金及び負担金…市特定の事業の財源として、その事業により利益を受ける個人や団体が支払うものです。保育所運営負担金や児童クラブ保護者負担金などです。

使用料及び手数料…使用料は、市の施設などの使用・利用者が支払うもので、市営住宅や運動公園、公民館などの使用料です。

寄附金…ふるさとづくり寄附など、個人や団体が市へ寄附したお金です。

繰入金…一般会計、特別会計、基金などの間で行うお金の移動のことで、他の会計からの繰り入れのほか、基金を取り崩して

繰り入れる場合もあります。

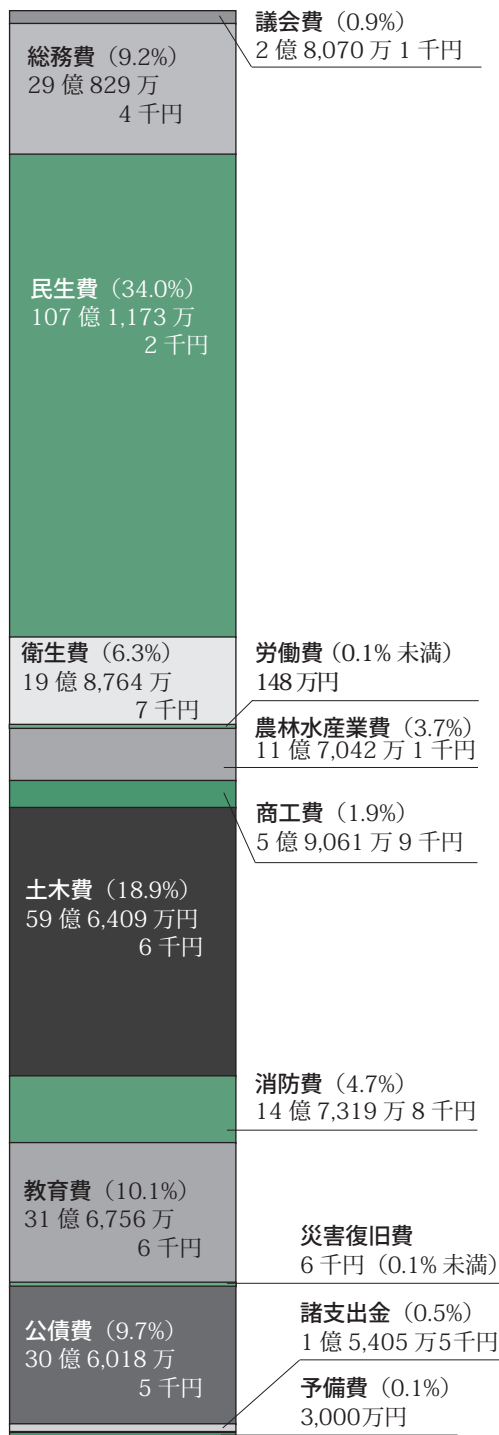
諸収入…他の科目に含まれない収入をまとめたものです。市税などの延滞金などです。

地方交付税…すべての地方公共団体が、一定水準のサービスを提供できるように国から交付される税です。

国庫支出金…国が用途を特定して地方公共団体に交付する支出金です。

市債…市が国や民間金融機関などから長期的に借り入れる資金のことです。市では、将来の財政負担が大きくなならないよう計画的に借り入れを行っています。

支出 目的別グラフ



社会保障に支出する「扶助費」は、昨年度より8億3700万円の増額となりました。

保育等運営経費4億8900万円、障害者自立支援給付事業1億7100万円、生活保護費8300万円の増額など大きな要因です。

市のさまざまな業務遂行に要する「物件費」は、昨年より1億4900万円増額としました。

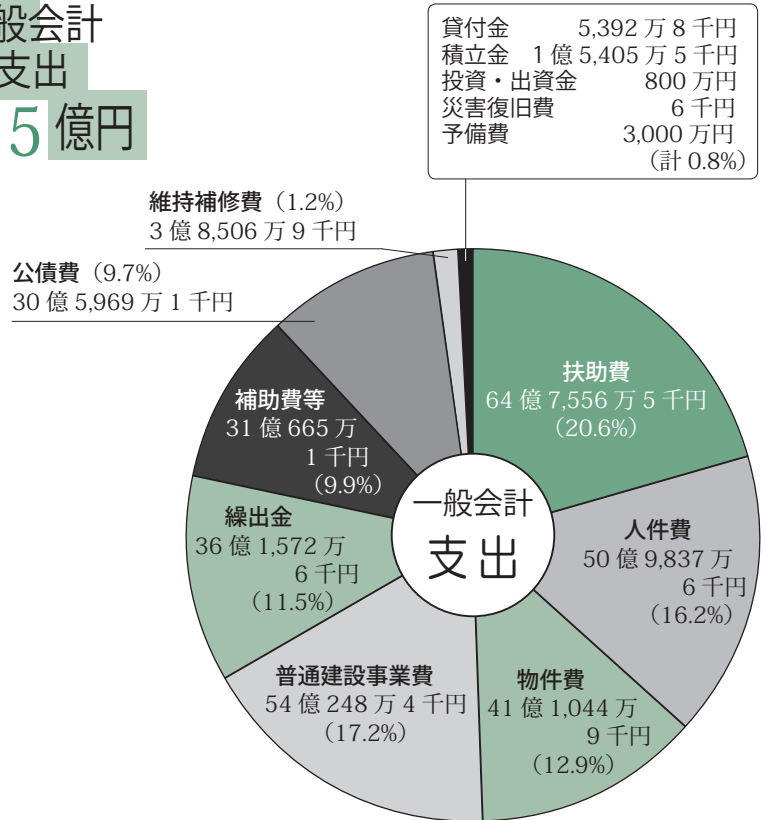
「普通建設事業」は、昨年度より15億2400万円の増額としました。

新庁舎建設に向けた経費3億5000万円、中学校へエアコンを整備する経費2億200万円、現在整備を進めている石岡駅周辺整備事業が9億1400万円の増額などが大きな要因です。

支出 性質別グラフ

一般会計
支出

315億円



用語の説明

■性質別分類■ 市の経費を、経済的性質に着目して分類したもので、大きく分けて義務的経費・投資的経費・その他の経費に分類されます。さらにその中で、人件費・物件費・維持補修費・扶助費・普通建設事業費・公債費などに分類されます。

扶助費…生活保護費、児童手当、老人福祉費など

人件費…職員の給与や共済費、議会議員の報酬など

物件費…消費的性質を持つ経費で、委託料や賃借料など

普通建設事業費…道路、学校、公園など各種公共施設の新増設事業など

補助費等…各種団体への助成金や一部事務組合への負担金など

■目的別分類■ 経費を達成しようとする行政目的に応じて区分したものです。

総務費…市組織の運営、徴税、戸籍、統計、選挙など

民生費…児童・高齢者・障がい者福祉、生活保護など

衛生費…母子保健、廃棄物処理、公害対策など

労働費…労働者福祉・支援などの経費

農林水産業費…農業振興、林業振興など

商工費…商工業振興、観光振興など

土木費…道路、公園、市営住宅などの整備や維持補修など

消防費…火災、風水害、地震などから市民を守る経費

教育費…学校教育、生涯学習、文化・スポーツ振興など

公債費…借り入れた市債の元金の返済や利子の支払いなど